

眼科

1. 目的と特徴

初期臨床研修修了者を対象に、眼科専門医の養成を目的とした後期臨床研修プログラムである。入局した後期臨床研修医は眼科診療の第一歩から研修を始めることを原則とする。5年間のプログラムの中で、眼科専門医になるために、眼の生理学、病理学、社会医学を学び、薬物治療、手術治療の研鑽を積む。また、患者に接する医師としてのマナー、説明と同意を得るための幅広い知識を修得し、眼科医であると同時に社会人としての育成を目指す。研修4年時に、日本眼科学会認定の眼科専門医試験を受験し、眼科専門医の認定を受けることを到達目標とする。専門分野を選択し、スペシャリストをめざす。

2. 指導スタッフ

教授・基幹分野長 飯田 知弘 准教授 丸子 一郎 講師 長谷川 泰司

3. 研修施設

基幹施設：東京女子医科大学眼科学講座

研修協力施設：至誠会第二病院、済生会川口総合病院、TMGあさか医療センター、西新井病院、井上眼科病院、井出眼科病院、東京女子医科大学東医療センター、東京女子医科大学附属八千代医療センター、さいたま市立病院、大月市立中央病院、上尾中央総合病院

4. 研修カリキュラム

A：一般目標

視覚障害について深く理解し、視覚障害者を思いやる暖かな心を身につけ、眼科学の基礎知識、診療技術、治療法を修得し実際の臨床に応用できる能力と幅広い知識を持った眼科臨床医を養成することを目標とする

B：行動目標

- 1) 眼科診療に必要な基礎知識、診察技術を修得する。
- 2) 眼科診療に必要な検査・処置・治療法に習熟し、臨床に応用する。
- 3) メディカルスタッフ（視能訓練士、看護師）と協力し患者の問題点を解決する。
- 4) 患者、家族の訴えを真摯に聞き、患者の苦痛に思いやりを示し診療にあたる。
- 5) 患者、家族に病状、治療方針を適切に説明する。
- 6) 医療安全管理の基本を理解し、慎重に実行する。
- 7) 病態を把握し、無駄のない検査を実施する。
- 8) 治療方針について上級医、指導医と相談し診療にあたる。
- 9) カンファレンスに参加して、症例のプレゼンテーションを明確に行い討論できる。
- 10) 最新の医療情報を取得することに努力する。
- 11) 学会、研究会に参加し4年間で最低2題は発表する。発表内容を4年間に最低1編を論文として投稿する。
- 12) 医療記録（診療録、手術記録、病歴要約）、診断書、報告書を遅滞なく正確に記載する。
- 13) 白内障の手術の助手、術者としての経験を積む。高難度の手術の助手を経験する。

- 14) 眼科専門医試験を受験する資格を取得し、眼科医4年修了後に眼科専門医を取得する。
 15) 上記すべてに対して下級後期臨床研修医を指導する。

C：年次別研修スケジュールと研修内容概略

以下は基本的なスケジュールであり、変更となることがある。

学年	研修場所	内 容
1年	大学病院外来、病棟	診療の基本手技の修得、術前術後の管理、手術助手、白内障手術執刀、レーザー治療修得、専門外来ローテート、学会発表
2年	大学病院外来、病棟 または関連病院	眼科特殊検査の修得、レーザー治療実施、硝子体注射の修得、白内障手術など手術執刀、専門外来ローテート、学会発表、論文投稿
3年	大学病院外来、病棟 または関連病院	白内障手術執刀、網膜剥離、硝子体手術の助手・トレーニング 学会発表、論文投稿、専門外来
4年	大学病院外来、病棟 または関連病院	白内障手術執刀、網膜剥離、硝子体手術の助手・トレーニング 学会発表、論文投稿、専門外来
5年	大学病院外来、病棟 または関連病院	専門医試験資格申請、専門外来

専門外来：黄斑網膜硝子体、角膜、ドライアイ、ぶどう膜疾患、神経眼科、未熟児網膜症、緑内障、斜視・弱視、色覚外来・ロービジョンをローテートする。

研修は、入局後3ヶ月間、眼科の基礎知識を養うクルズスを組み立てており、指導医の元で研修し、4ヶ月目から午前の外来診察を一人で始める。この場合、必ずスタッフと2診で診療を行い、所見のとり方、検査の組み立て方、治療方法（投薬、手術適応など）の指導を受けながら診療していく。同時に午後は専門外来で、疾患別の治療方法を研修する。専門分野は今後出張病院で診療するために必要十分な知識を得る事ができる。大学病院として、一般的な疾患から特殊な疾患まで数多く研修できる魅力がある。

また、1年目に医局員のサポートを受け国際学会に参加する機会がある。

D：週間予定

	午 前	午 後（専門外来）
月	月曜班手術 連絡会 教授病棟回診 外来・黄斑外来	黄斑・症例検討会
火	外来	未熟児網膜症（外来及びNICU往診）・ドライアイ・緑内障
水	水曜班手術 外来	角膜、色覚、黄斑、ぶどう膜、網膜硝子体
木	木曜班手術 外来・黄斑外来	黄斑、神経眼科
金	飯田教授病棟回診 外来	斜視弱視、ロービジョン 網膜蛍光眼底造影検査
土	外来	

E：評価

診療グループのチームマネージャー、研究グループのグループリーダー、診断部門の指導医、治療支援グループのグループ長あるいはメディカルスタッフから逐次形成的評価を受ける。手術に関しては、評価シートを提出し、症例数の報告、内容のフィードバックを受ける。評価内容は随時教授・基幹分野長に報告され、年次の変わり目には教授・基幹分野長が点検、面接を行い、評価内容が評価シートにてフィードバックされる。

学内症例発表の発表内容、発表態度がスタッフから評価される。学会発表、論文の投稿にて評価される。

5. 後期臨床研修修了後の進路

後期臨床研修修了後、東京女子医科大学眼科に就職を希望するものは、教授・基幹分野長と相談し、助手もしくは助教として採用も可能。連携施設への長期派遣なども相談に応じる。

6. 学位

後期臨床研修が修了した後、それまでの研究をまとめ、研究論文を掲載する。教授・基幹分野長との協議のもと、医学博士の学位の申請が可能である。

また、臨床大学院生は、臨床研修をしながら研究を並行して行い、博士課程の修了時に医学博士の学位が授与される。

7. 専門医

4年次に日本眼科学会の眼科専門医取得の申請を行い、5年時6月に眼科専門医試験を受験。眼科専門医を取得する。 <https://www.nichigan.or.jp/senmon/>

8. 問い合わせ先

〒162-8666 東京都新宿区河田町8-1
東京女子医科大学眼科学教室
広報係
TEL：03-3353-8111（内線：37213）
FAX：03-5269-7617
東京女子医科大学眼科ホームページ参照

